

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢・発見・実現」。総合学科高校の特色を活かし、「ドリカム」授業をコアカリキュラムとし、各系列での学習を通して生徒の興味や関心に応じた幅広い知識や技能を習得させるとともに、学校全体での人権教育・生徒支援・生徒指導のうえに、キャリア教育・教科指導等を密接に連携させて、きめ細かい支援・指導を行い、生徒一人ひとりの「進路実現」を具現する。

- 1 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力を育成する。
- 2 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 3 地域との繋がり人との繋がりを大切にし、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 4 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行うとともに、多文化共生を推進する。

## 2 中期的目標

1 「夢・発見・実現」より「夢から発見」一夢を見つけて将来に向けた力をつけるキャリア教育を推進するー

(1) 「ドリカム」をコアカリキュラムと位置づけ、全ての授業との関連を持たせつつ、自分で考え自分の言葉で表現できる生徒を育成する。

ア 3年間を見据えたグループ学習等を通じて主体的に学ぶ意欲を養い、多様な出会いや体験を通じて自分の将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成し、生徒に自己実現させる。

イ 3年生課題研究において、自分が選んだテーマを研究し、論文にまとめ、プレゼンテーションすることを通じて、視野を広げ伝える力を育みながら、自らの個性・生き方を磨き、自らの進路を切り開く力を育成し、生徒に自己実現させる。

ウ 学校外の協力も積極的に導入し、生徒の基礎学力と学習意欲の向上をめざして多様な進路を保証する。大会・コンテスト・検定等に積極的に挑戦し、生涯を通じて学ぶ力を身につけさせ、幅広い進路を確保して、生徒に自己実現させる。

2 「夢・発見・実現」より「発見から実現」ー総合学科の特色が最も現れる「授業」を大切にするー

(1) 生徒の実態等に基づき、基礎学力を定着させるとともに、興味関心・進路希望に応じた教育内容を創造し、生徒の学ぶ力を向上させる。

ア 新学習指導要領の導入に合わせ、系列等の選択科目を刷新し、総合学科としてカリキュラムの充実を図り、生徒の学習意欲を向上させる。

イ 学び直しや少人数展開授業の実施等により、文章読解の力など基礎学力の定着を支援し、生徒の学習意欲を向上させる。

(2) 主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを進め、生徒の学ぶ力を向上させる。

ア ICTを活用した授業改善を行い、府教育センターの研修や他校の授業見学等に積極的に参加し、授業力を磨いて生徒の学習力を向上させる。

イ 「主体的・対話的で深い学び」の推進のため、校内研修や授業見学等を行い、教員全員が相互に実践を共有して生徒の学習力を向上させる。

(3) 「総合学科」の特徴を生かし、「総合学科」らしい進路を含めて、進路決定率90% (H29:90%、H30:88%、R元:87%)。

3 「夢・発見・実現」に打ち込める学校ー安全で安心な学びの場づくりー

(1) 生徒一人ひとりをサポートする人権教育・生徒支援・生徒指導の一層の充実を図り、生徒の不安を解消する。

ア 保護者・中学校・本校並びに各生徒の地域や外部の専門人材・支援機関等と連携し、包括的で効果的な生徒支援・生徒指導を行う。

イ 学校行事や交流活動などの生徒が生き生きと活動できる場を3年間見通した活動の中で提供する。部活動については引き続き重点項目とし、生徒の自尊感情や集団の中での有用感を高め、興味関心のあることに生涯を通じて継続的に取り組む力を育成する。

ウ 日本語指導の必要な生徒について、母語指導の充実や進路への取組みを進めるとともに、学校全体で多文化共生の取組みを発展させる。

(2) 教職員が学校経営計画のもと志を一つにし、互いに協力し合う中でチームとして機能する職場づくりを推進する。

ア 担任だけでなく副担任も含め、情報共有を密にしなが、全ての教職員が適切かつ丁寧な指導できるよう、チームワークを活かし学年団として対応し、生徒が安心して相談できることに努める。

イ 校内研修やディスカッションを通して経験の少ない教員のOJTを図り、併せてミドルリーダーの育成を図る。

ウ 年齢構成等、教員集団の現状を踏まえたうえで、教職員一人ひとりの意識改革と学校全体のチーム作りを図り「働き方改革」に取り組む。

4 「夢・発見・実現」のための連携ー「キャリアパスポート」の継承、地域や保幼小中高連携との推進ー

(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成により地域とのつながりを充実させる。

ア これまで培ってきた幼保小中との連携、地域連携のネットワークを基盤に、地元に根づいた「開かれた学校」づくりを一層推進する。

イ 学校運営協議会及び学校教育自己診断等を活用し、保護者や地域のニーズを反映した学校改善に取り組むとともに、「キャリアパスポート」を引きつぎ、また「豊川教育コミュニティネット」の一員として、中学校や地域とのネットワークを強化し、総合学科高校としての情報を積極発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見
	第一回 ( / 開催) 第二回 ( / 開催) 第三回 ( / 開催)

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「夢・発見」 キャリア教育の推進	(1)「ドリカム」を全ての学びの中心に ア、グループ学習の実施 イ、課題研究の充実 ウ、各種挑戦の奨励	(1) ア、プロジェクト学習や多様な社会人と出会いを通じて、生徒に進路や生き方について考えさ、自己有用感を向上させる。 イ、刷新したドリカムルームをフル活用するとともに、他の ICT 環境も充実させ、ドリカムフェスタ(総合学科発表会)を充実させ、自己肯定感も向上させる。 ウ、大会・コンテスト・資格等への挑戦を奨励し、目標を設定して努力する姿勢を育成する。	(1) ア、自己診断アンケートの進路・生き方についての肯定的回答：80% (R 元年度 77%)。 イ、総合学科卒業生アンケートの「ドリカム」関係の肯定的回答：75% (同 70%)。 ウ、一定の大会・コンテスト・資格等に挑戦したものに「福井高校賞」授与者数について 20 名をめざす (同 13 名)。	
「発見・実現」 確かな学力の定着	(1) 興味関心・進路希望に応じた教育内容の創造 ア、選択科目の精選と内容の充実 イ、少人数展開授業・文章読解・学び直しの内容の向上 (2) 主体的対話的な授業による学習意欲の向上 ア、授業改善の取組み イ、学習力向上のための研修の実施	(1) ア、総合学科の特徴を生かして生徒の興味関心やキャリア形成に有用な科目設定・授業展開を行い、生徒に自己実現させる。 イ、英数では習熟度別授業を実施するとともに、全教科で読解力の育成と学び直しの要素を取り入れた授業を行う。 (2) ア、経験の少ない教員を中心に、OJT や校内研修会を充実させ、生徒の学習力を向上させる。 イ、教員相互の授業見学や研究授業を実施するとともに、各教員の目標に「主体的・対話的」な授業の工夫を設定し、実践を検証する。	(1) ア・イ、卒業生アンケートの「総合学科で学んでよかった」の回答：90% (R 元年度 93%)。 ア・イ、自己診断アンケートの「他の学校にはない特徴」の回答：75% (同 77%)。 (2) ア、自己診断アンケートの「授業が分かりやすい」の回答：60% (同 54%)。 イ、自己診断アンケートの「教え方の工夫」の回答：70% (同 65%)。	
安全で安心な学びの場づくりの推進	(1) 人権教育と生徒指導等の充実 ア、生徒に寄り添った指導の促進 イ、学校行事や部活動の充実 ウ、多文化共生の取組み (2) 志を一つにする教職員集団 ア、全ての教職員のチームワーク向上 イ、ミドルリーダーの育成 ウ、「働き方改革」への取組み	(1) ア、職員研修や専門機関等の指導を受けるケース会議を行う。丁寧な情報共有ときめ細かい指導により、生徒が「学校生活を楽しい」と感じる雰囲気醸成する。 イ、特別活動をはじめ、集団作りの観点から 3 年間を見通した取組を進める。部活動においては学校全体で支援体制を充実させ、加入率をあげ、かつ継続させる。 ウ、日本語指導・母語指導・進路指導の充実と多文化共生の取組を学校全体で進める。 (2) ア、広報連携部を組織し、首席・分掌長・学年主任を中心に組織で生徒対応する。 イ、Y プロジェクトを継続し、各業務をチームで行うことを推進し、さらにその姿を生徒に見せて協力の大切さを実感させる。 ウ、一斉退庁日や部活動の休養日の趣旨を徹底し、業務の平準化をすすめて生徒にも「働き方改革」の実際を見せ、将来の働き方を考えさせる。	(1) ア、研修・ケース会議を年間 5 回以上実施。自己診断アンケートの「学校に行くのが楽しい」の回答：75% (R 元年度 72%)。 イ、部活動の加入率の減少を止め、体育祭・文化祭・修学旅行について自己診断アンケート肯定的回答：70% (同 67%)。 ウ、多文化共生にかかる自己診断アンケートの肯定的回答：70% (同 63%)。 (2) ア、自己診断アンケートの「悩みや相談に真摯」の肯定的回答：70% (同 64%)。 イ、自己診断アンケートの「先生はお互いに協力」の肯定的回答 70% (同 66%)。 ウ、教職員の超過勤務時間を、週 35 時間以下とし、ストレスチェック値を 10 ポイント下げる。	
多文化共生を生かした地域連携の推進 保幼小中高大連携の推進	(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ア、地域に根ざした学校づくりの推進 イ、「キャリアパスポート」を活かした中高連携の構築 ウ、地域、中学校に向けた情報発信 エ、多文化共生を生かした連携	(1) ア、生徒会、部活動などが地域のイベントに積極的に参加し、交流を深めることや、地元小中学校での出前授業を行う。また、茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加し、「福井高校を育てる会」と連携を強める。 イ、一斉に始まる「キャリアパスポート」の取組について、小中学校との連携を深め、発展的に継承する。 ウ、学校の取組を HP・説明会など地域・中学校に発信するとともに、「福井高カップ」をはじめ生徒主体の取組を進める。 エ、日本語指導が必要な生徒のための選抜実施校であることを生かし、大学等ともつながった多文化共生の連携を行う。	(1) ア、自己診断アンケートの「地域交流」の肯定的回答を 70% (R 元年度 60%)。 イ、保幼小中一貫で取組まれる茨木市の学校等との研修会などに参加する (参加率 75% 以上)。 ウ、自己診断アンケートの「学校の HP を見る」の回答を 10%UP の 45% (同 33%)。 エ、多文化共生の地元連携を 5 件以上行い、大学等の調査・研究にも複数協力する。	